



草場 大和さん (37歳) (営農地／久留米市大橋町)

産地としても、自身の経営もトップでありたい

《就農のきっかけ》

県農業大学校時代の 留学先で心を動かされて

高校時代まではずっと、自動車関係の仕事に就きたいと思っていました。しかし、兄が農業を継がなかったので、父の矛先が自分に。「車を買ってやるから、農業大学校に行かないか。」という甘い言葉に誘われ、県農業大学校に入学しました。

県農業大学校での学生生活は思いのほか楽しく、県内外に多くの仲間ができました。農業をやろうと決心した契機は、県農業大学校のカリキュラム、農家留学での農家との出会いです。「自分もこんな農家になりたい。」そう思わせる仕事ぶり、暮らしぶりでした。

《これまでの過程》

技術と経営の向上に励む毎日

就農後は、部会の研修会等で技術習得に励みました。先輩達もとても親切で、技術のことだけでなく、様々な相談に乗ってくれました。技術面で最も気を遣うのは、フザリウムという土壤中にいる菌をいかに抑えるか、ということです。防除技術や新品種の導入で以前よりも被害を減らすことはできていますが、農薬をさらに減らせるように、病害の出にくい土づくりに努めています。

経営面では、父母が始めたサラダ菜経営を徐々に拡大してきました。現在は約140aのハウスを経営していますが、情勢を見ながら、さらに年500坪ずつほど拡大したいと思っています。規模拡大とともに雇用を増やし、現在は常時・臨時合わせて7名を雇用しています。雇用については、「働いてもらっているから、うちの経営がある」との感謝を忘れず、特に若手が悩みや不満を抱えたままにしないよう、一人一人との対話を心がけています。

この雇用は、家族との時間を大切にすることにもつながっています。わが家では「家族経営協定」を結び、家族の役割分担とともに毎週日曜日を休日と定めていて、多忙な中でも、妻と子どもと過ごす時間を確保できるよう、やりくりしています。



プロフィール

- 家族構成／祖母、父、母、兄、妻、子ども3人 ■営農年数／約15年
- 従業員数／7名(常時雇用3、パート2、外国人実習生(中国)2)名
- 耕作(経営)面積／施設140a ■販路／JA共販

《これからの展望》

現状維持は退歩なり

現在、JAくるめサラダ菜部会の部会長を務めています。サラダ菜部会は、販売金額は4億6千万円と、土耕栽培では全国一の産地で、その品質の高さは全国の流通関係者に認められています。生産者は13名ですが、1戸1戸の規模が大きく、技術力も高い精鋭集団。最も若手なので、この部会を牽引していくプレッシャーは非常に大きいですが、「いままでと同じことをやっても成長はない」という信念で、産地の一層の成長を目指しています。そのために、技術向上はもちろん、販売面でも、サラダ菜の優れた栄養価を消費者に伝えるため、直接交流を増やすなどの取組を進めていきたいと考えています。自身の経営においても、2.5haを目標に規模拡大を進めていきます。「息子が就職するときに、就職先の一つとして我が家の経営を考えてくれたらいいですね。」



Good👍 成功の ためのポイント

情勢は変化しており、経費も高騰しています。その中でも利益を上げるには、ロスを減らし、商品率を上げることが必須です。現在も、十数棟あるハウスごとに作業や出荷数量を記録して管理していますが、それをデータベース化して、さらに高度な管理を行いたいと思っています。